ごぜ唄が聞こえる 2015

良い人と歩けば祭り　悪い人と歩けば修行

“最後の瞽女” 小林ハルの言葉

力強く歌い続ける声がありました。
凛と響く潔い唄声と三味線の音は、
聴く人の心に沁み入り楽しませてきました。
小林ハル直伝の技を引き継いだ萱森直子さんによる
日本人の心の奥底に響く、
ごぜ唄の調べをお楽しみください。

2月27日(金)	2月28日(土)
14：00～	14：00～
19：00～	

※全 3 回公演／開場は開演の 30 分前

【出　　演】 萱森直子（越後ごぜ唄）
【上演時間】 約90分

2,500円（予約制 当日精算 全席自由）

■視覚障害者割引 及び 付添い割引あり
詳しくはお問い合わせください。

会わずに帰るが残念と　涙ながらにいとまごい
降りくる雪のその中を　急いでこそは行かれける

QRコードで簡単予約

http://broaderhouse.info/gozeuta.html

お電話での予約・お問い合わせは　**080-5055-3251**
※非通知不可
※留守電になりましたら、改めてこちらからご連絡いたしますので、
お名前とご連絡先をお入れください。

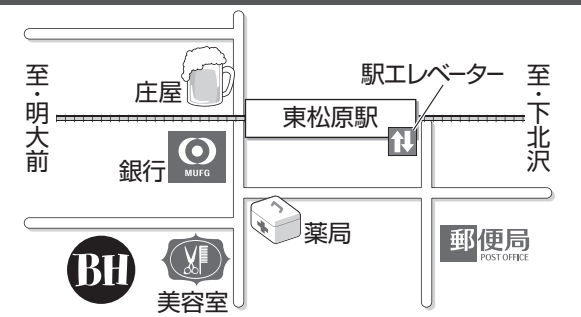
【企画・制作】 荒木明子
【舞台美術・監督】 辰巳次郎
【宣伝美術】 オフィスSKD株式会社
【協　　力】 新潟館ネスパス　東京新潟県人会　Ks Company

越後ごぜ唄 萱森直子

ブローダーハウス　〒156-0043　世田谷区松原5-27-10　TEL.03-3324-0919　FAX.03-3324-0916

Broader House
ブローダーハウス
http://broaderhouse.info

ブローダーハウスはお陰さまで10周年を迎えました



京王井の頭線『東松原』駅改札を出て右、徒歩1分
※急行は止まりません

瞽女（ごぜ）さんとは、

三味線を携え農村・山村を巡る盲目の女性旅芸人のことです。

一年のほとんどが旅で明け暮れ、目的の村に着くと「ごぜ宿」という泊まりつけの家に荷を下ろしては、村の家々の戸口で唄い、来たことを知らせ（門づけ唄）、夜になれば、村人が集まりごぜの本領である祭文松坂（段もん）や口説き、民謡など（ごぜ唄）を聞かせ、喜捨や米や祝儀を収入としていました。

江戸時代には北海道を除く日本全国で姿を見ることができましたが、明治時代に入りラジオやテレビの普及によって次第に衰退していきました。それでも特に新潟県では昭和の時代まで栄え、昭和５２年（１９７７年）に瞽女が最後の活動を終えるまで続きました。瞽女唄は日本の娯楽の一端を担っていた伝統芸能の一つです。

最後の瞽女さんと言われ、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財保持者（通称人間国宝）であった小林ハルさんも２００５年、１０５歳で亡くなり、今では数人の方がごぜ唄継承に努力されています。

華法寺の境内でごぜ唄を披露しているハルさん
【写真提供：二瓶文和氏】

＊小林ハル

1900年（明33）		新潟県三条市で出生 生後100日で失明
1905年	5才	瞽女の親方に弟子入り
1909年	9才	初の旅回り
1973年		福祉施設に入所するまでの13年間を華法寺のある阿賀野市出湯にて二瓶文和氏の恩顧を受け過ごした。
1985年		特別養護盲老人ホーム「胎内やすらぎの家」で小林ハル、萱森直子会遇

萱森直子プロフィール

記録作成などの措置を講ずべき無形文化財保持者の長岡瞽女小林ハル氏に師事。
小林ハルの伝えた３種類の節回しで祭文松坂をうたいわけることのできる唯一の唄い手。
師匠小林ハルのすすめにより、高田瞽女・杉本シズ氏より高田系瞽女唄も習得。
長岡・高田両系統の瞽女唄を直接伝授された、現代において唯一貴重な伝承者である。
公演では『瞽女唄は、かつての瞽女と聞き手たちの息遣いとともに伝えられなければならない』を信念として、現代の感覚で手を加えずにありのままのごぜうたをよみがえらせることを心がけている。
教職経験をいかし、新潟市内の保育園で園児と唄う活動にも取り組むなど、瞽女唄をめぐる環境づくりや後進の育成にもつとめている。
近年、新潟近県はもとより、山梨県清里、大阪府和泉市、京都清水寺、伊勢市、金沢市等、演奏会も全国的に広がっている。

ブローダーハウスと萱森直子瞽女唄公演の歩み

2007年	12月	ブローダーハウス企画初の東京公演 ごぜ唄が聞こえる 「赤垣源蔵・巡礼おつる」
2009年	2月	ブローダーハウス3周年記念　3週間連続公演 ごぜ唄が聞こえる2009 「葛の葉子別れ」
2010年	2月	ごぜ唄が聞こえる2010 「石堂丸」
2011年	2月	ごぜ唄が聞こえる2011 「八百屋お七」
2012年	2月	ごぜ唄が聞こえる2012 「山椒大夫・景清」
2013年	2月	ごぜ唄が聞こえる2013 「巡礼おつる」
2014年	2月	ごぜ唄が聞こえる2014 「佐倉惣五郎」

萱森直子による　指導・協力作品

2008年	NHK「新日本紀行ふたたび」萱森直子　出演
2009年	NHKオーディオドラマ「女歌　夢の道行」 (石川さゆり主演)の制作に参加。
2011年	石川さゆり主演舞台「夢売り瞽女」（大阪・名古屋） ごぜ唄指導・三味線協力
2012年	東京ノーブィ・レパートリーシアター公演 「越後瞽女唄冬の旅」ごぜ唄指導

毎日新聞、新潟日報など、新聞、雑誌にもその活動や文章がたびたび紹介され、萱森自身も「ブローダーハウスはごぜ唄にとてもふさわしい場として楽しみにしている会場である」と述べている。

川野楠己：著　「瞽女　キクイとハル」　2014年10月23日 初版発行

平成19年春に、萱森を招いて「ごぜ唄が聞こえる」と題した第一回公演に続いて、平成21年(2009)2月に第二回を開催した。すると次回はいつですか？との声が寄せられ、以来毎年続けるようになり、平成26年(2014)で七回続けて毎年2月に2日間3回公演をおこなってきている。
今では、瞽女唄のブローダーハウスとなり、毎年百人が待ちかねたように来場され固定客となった。遠方では倉敷、京都、松本などの他、関東一円から二時間以上かけてこられる人がいるようになった。東京で瞽女唄が聞けるのがうれしいと毎回新しい方が来られ、前回は視覚障害者も来られ係員が介護誘導を学ぶこともあった。

＜中略＞

都会の喧騒の中で日常を過ごす人たちが、ブローダーハウスでのひとときから、瞽女の魅力を感じ取り、瞽女唄がもつ風土による癒しを見出していたのである。
さらに萱森の「自分が惚れ込んだ瞽女唄に真摯に向き合っている演奏と語り口」に惹かれたのであろうといえる。
萱森は公演の冒頭に「私は健常者であり瞽女ではない。瞽女唄を直接ハルさんの指導を受けた伝承者としてうたい方の技術を伝えるものではない。瞽女として生きたハルさんの心、と思いを伝えようとしている」と語る。

ブローダーハウスの聴衆 より抜粋